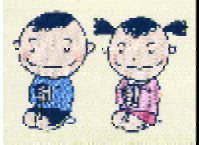
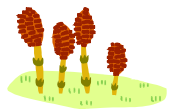


伝道教化活動の拠点に



浄光寺説教所 都野津 浄光寺会館

説教所を活用しよう!

おみのりをよるごぶ道場
 青少年の宗教情操教育
 お年寄りの憩いの場
 地域のコミュニティーの場
 葬儀は説教所で



(当山第14代白英の碑)

説教所の境内には当山第十四代住職白英師の功績をたたえて石碑が建てられている。
 明治二十二年七月三十一日往生。享年五十三歳

浄光寺説教所概観

浄光寺第十四代白英師によって建てられる

浄光寺第十四代白英住職のとき、本願寺教団の発展と布教の功勞により、

本願寺第二十一代明如法主より、数多くの染筆の軸物と越後の大寺「鳥屋野山浄光寺」に因み、「鳥屋野山」という山号、「浄光精舎」の額字及び額面を賜る。

白英師は越前の国「唯宝寺」石丸了因の長男として生を受け、明治九年に当山に入寺。明如法主より破邪顯正係りを任せられ、大洲鉄然・島地黙雷らと共に鹿兒島・長崎を始め、九州諸県を開教。明治十三年には明如法主より本願寺宗政編製を委嘱されその任にあたる。同年に東京教務所管事、同五年には京都教務所管事に就任。又、鹿兒島別院建

立や東京別院再建の責任者としても従事している。

明治十八年に、都野津説教所の一角（現在の庫裡に相当する部分）にあつた建家（友澤教会）が、浄光寺住職の管理下になる。その建家は白英師によって明治十三年に本願寺説教所として本山登録がなされている。白英師は明治二十年に布教活動の拠点として、その場所に浄光寺説教所（約八百坪）建立を計画推進。

白英師の御法ひろまれかしの深い願いと、門信徒の方々の燃ゆるようなご報告によって、明治二十五年九月十六日、ついに本堂・庫裡・境内地の完成を見るに至った。古老の話によると、現在の説教所の場所は殆んど

家もなく荒れた砂浜であつた。浄光寺の支坊である説教所が海浜地域に建立されるということ、当時は今のようないかなる道具がない時代に、当地域の門信徒総出のもと、バケツやおいこ・もっこう等を手に手にして、土を随分遠くから運んで境内地全体を固くし、正面と西側に土塀を造り門を建て、現在のような説教所が竣工。多くの人の心と心のよりどころとなる間法の道場が完成したと、門信徒一同手に手を取つてよるこび、感激の涙を流したところである。

法灯継承（歴代住職）

開基	慶應	11	代	祥	應
2代	教念	12	代	福	應
3代	教西	13	代	誓	應
4代	代願	14	代	白	英
5代	代正	15	代	貞	政
6代	代靈	16	代	温	香
7代	代白	17	代	温	月
8代	代林	18	代	紹	隆
9代	代春	19	代	顯	之
10代	代應				

(現住) 紹隆 (若院)